

びわこ南部エリア

(1) 事業概要

地方自治体： 滋賀県

課題： 「診断・治療のためのマイクロ体内ロボットの開発」

中核機関： 財団法人 滋賀県産業支援プラザ

核となる研究機関： 滋賀医科大学、立命館大学、龍谷大学、
滋賀県工業技術総合センター

概要： 滋賀県の産業集積・大学の医工連携による研究シーズ・滋賀県独自の経済振興策を有効に活用した産学官連携のもとに実施する「マイクロ体内ロボットの開発」と、開発過程での「多様なコア技術の出現」を通じて、医療・健康福祉分野の新産業の創出を図るとともに低侵襲診断・治療の実現を目指す。

具体的には、エンドバイオニクスロボットの実現と、本事業により生まれた各々のコア技術を利用して、マイクロ医療機器・医療技術の開発や次世代の健康・予防家電への産業応用など、実用化研究への展開を進め、新産業を創出するとともに、本エリアの産学官連携組織をさらに強化し、新産業創出基盤の充実 強化を図ることとする。さらには、高度なマイクロ医工連携技術の蓄積によって産業基盤の強化、当該分野での世界的研究開発拠点の確立により、本エリアの特徴的産業集積である電子、機械、バイオ産業などへの応用と新産業創出が加速する特色あるマイクロ医工学産業クラスターとして、大きく発展させることを目標としている。

(2) 評価

本事業は、県が独自の産業振興施策として実施する「びわこ南部エリア新産業創出特区」の中核事業と位置付けられ、各種の産学官連携・産業振興に係る事業と連動して実施されており、地域が目指している産業振興の取組に寄与するものとなっている点は評価できる。

産学官の連携基盤の構築に向けては、連絡会議の開催や上記の特区関連の事業の実施とともに、「ユーザー会議」の開催によりシーズと企業ニーズのマッチングを図ったことは、優れた取組として評価できる。

研究開発については、各テーマで要素技術としての研究成果が得られており、体腔内ロボットの事業化などについては多くの解決すべき課題が残されているものの、一部には具体的な実用化が見込まれる成果も出ていることは評価できる。概ね適切な事業運営であったと思われるが、研究内容が多岐にわたり、優先すべき課題への研究資金の重点配分や研究開発ロードマッピングの見直しなどについて、不十分な面があったと思われる。

研究成果の事業化支援に向けて、地域独自の研究開発事業の公募と資金支援などの具体的な取組や、他地域のクラスターとの連携を計画していることは評価できる。今後は、市場の動向も的確に把握しつつ、民間企業との連携をより一層強化することにより、技術シーズの実用化に取り組むことが望まれる。

(3) 項目別評価結果

1. 目標達成度		3.4
2. 事業計画		3.0
3. 事業成果	(1) 連携基盤の構築	3.9
	(2) 研究開発の成果	3.4
4. 地域の取組	(1) これまでの取組	3.0
	(2) 持続性・自立性	3.3